

## 新規国内侵入病害虫対策のためのリスクアナリシス実施手順の確立

研究期間	平成 25 年度～平成 27 年度
課題番号	2507
研究実施機関	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構(中央農業総合研究センター)
研究概要	<p>農林水産省では、国内農業に被害をもたらすリスクの高い病害虫が我が国に発生した場合に迅速な対応を行うため、「重要病害虫発生時対応基本指針」を平成 24 年 5 月に策定しました。本指針では、病害虫の「潜在的まん延能力及びまん延の予想速度」や「まん延により予想される将来的な経済的損失」等について評価を行うことを定めるほか、特に国内農業に甚大な被害を与えることが明らかな重要病害虫について防除指針を策定することとしています。</p> <p>そこで、新規侵入した重要病害虫に対して行うべき防除対策を迅速に決定するために必要なまん延速度や被害動態の予測手法、植物の移動規制や病害虫の緊急防除等の公的防除の費用対効果を分析する手法等を開発し、これら重要病害虫に対する PRA(病害虫リスクアナリシス)に求められる定量的な評価・分析の手順を確立するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>新規に国内侵入した病害虫の「発見時点での定着の可能性」、「移動経路ごとのまん延の可能性」、「公的防除の費用便益分析」の評価手法を開発し、これら評価手法を組み合わせることで可能となる国内検疫向け PRA における評価・分析に係る手順を策定しました。</p> <p>また、本手順の理論を輸入検疫における PRA に適用し、その高度化を図るとして、現行の「輸入検疫におけるリスクアナリシスの手順」について具体的な改善方法を取りまとめました。</p>
行政における研究成果の活用方針(平成 28 年 11 月時点)	重要病害虫に対する PRA に活用することを検討する。

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載